

# 梅雨の晴れ間、田植え祭に354人

田んぼ一帯に人、人、そして子ども、子ども……。梅雨の晴れ間に恵まれた6月11日(土)の鎌倉広町緑地・田植え祭には、去年まで10回の田植え祭で最多だった2011年の358人に迫る354人が参加する盛況で、半数以上の181人が子どもでした。



8時半、腰越地区から、わくわく子ども会の親たちが、自転車で来る子どもたちに先行して一番乗り。その後、親子連れが続々と田んぼの周囲を埋めました。1時間後、6枚ある田んぼの1枚を囲んで、畦に人垣ができ、スタッフ画説明する植え方を聞きました。

田んぼの1枚は2日前、地元の市立手広中学校の生徒たちが体験学

習で田植え済み。参加者たちは思い思いに、残りの5枚に入りました。ここで例年どおり、「田植えメジャー」の出番です。ロープに30センチおきに、ペットボトルの蓋を固定してあります。

スタッフが畦に平行に移動させるメジャーに従って、苗を蓋の位置に、1カ所に3本ずつ植えていきます。



## 3歳児も植えた

私たちの田植えには、幼児も参加できます。自然との触れ合いを幼いうちから体験して、という願いからです。

3歳児でも、親を真似て植え始めると、すぐ要領を覚え、苗の根を深く、しっかり植えこみます。ことしはさらに、9か月の男児もママにおんぶして参加しました。

2アール近く、一番広い「ふじ田んぼ」では、わくわく子ども会や、子どもたちが自然に親しむように活動している「かまくら緑の探偵団」の子らが、集中的に泥まみれになりました。

参加者が多いので、田んぼが狭く見えます。大人と子どもが一体になって、植え始めてから1時間余りで、全田んぼに若緑色の苗が整然と並びました。

## 収穫米のおにぎりを頬張る

その間に、探偵団を中心にした母親たちが、去年の収穫米を炊いて、おにぎりを作っていました。田んぼ横の御所川で手足の泥を落とし、頬張りました。

植えたのは田んぼ1枚にもち米キジユモチ、他の5枚にうるち米サトジマンの苗。8月初めには1メートルほどに伸び、穂をつけます。10月第2週に、同じように市民の参加で稲刈り祭をします。

300キロ以上の収穫を期待。11月第3週の収穫祭で新米を薪で炊き、おにぎりやお餅にして提供します。



### 田植え祭の

#### 各年参加者(人)

年	参加数	18歳未満
06	64	12
07	143	56
08	184	81
09	260	123
10	358	182
11	212	107
12	170	70
13	243	121
14	280	148
15	309	144
16	354	181